

手びねりで自由自在に漆器が造形できる漆粘土

発明の名称 「漆を主体とする粘土状塑性造形材料」
特許番号 特許第3669435号
権利者 福島県

【主な特徴】

陶土・パルプ・漆・糊・添加剤が混合された造形素材です。手びねりで自由に立体的な形ができ、簡単に漆素地ができます。削ったり付け足したり、転写を利用した造形も可能。天然素材でできていますので、木材と同様に廃棄できます。

【従来技術の課題・問題点】

これまで漆器をはじめとした漆工芸品は、まず形になる木地・素地をつくり、それに漆を何度も塗って仕上げるのが一般的で、自由な造形をするのに、作り手と塗りの意思の疎通、形状の自由さなどに制限がありました。

【課題解決のポイント】

粘土細工のように自由な造形ができ、木材と同じように自然に優しい材料で、漆塗料にも馴染みがいいコンジット材料を考案しました。ポイントは漆液をマトリックス材として使うため、室温でも固まり、締まるような反応性添加剤を見つけることです。

【技術の概要】

“漆粘土”は陶土・パルプ・漆・糊・添加剤が混合された造形素材です。
※漆工材料で自由自在に造形できる素材は、世界で初めての発明です。



写真1 京都市立芸術大学生作品



写真2 立ちひな人形
(大森漆器工房)



写真3 体験教室

- 実施許諾 可能
- 共同研究等 不可
- 事業化の実績 あり

連絡先：福島県ハイテクプラザ 産学連携科 024-959-1741